

## 令和3年度第2回法政策等フォーラム型実験小委員会議事概要

- I. 日 時：令和3年9月29日（水）18：00～20：00  
II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局 ネット会議（ZOOM 使用）  
III. 出席者：中村主査、高嶋委員、佐渡友委員、井上委員  
事務局：井端事務局長、野本

### IV. 確認および検討事項

#### 1. 3チームの実験授業実施日・時間の詳細と進め方の調整・確認について

本協会が目指す事業の目的、実験授業の方法等について、資料①、②に沿って中村チーム、井上チームから報告が行われ、前回議事録に沿って、以下の点について確認を行った。なお、高嶋チームからの資料は提出されなかった。

- ① チームの構成
  - \* 神奈川大学（中村チーム）・・・2年生5名（5チーム）の25名
  - \* 神奈川大学（井上チーム）・・・2年生2名（1チーム）、3年生7名（2チーム）の9名
  - \* 京都産業大学（高嶋チーム）・・・3年生3名、4年生1名の4名
- ② 法政策等フォーラム型実験授業の目的  
コロナ禍社会でのSDGsを考える観点から、複数大学のゼミナールと有識者を交え「健康と福祉」の提案について解決案を議論し、発表・講評を通じてフォーラム型授業の有効性・課題を研究する。
- ③ 課題の提示  
「日本の健康と福祉」をテーマとする。現在、社会体験している予防から生じる生活様式の転換を背景に、持続可能な新しい人間社会の営みの在り方、共生について議論する。
- ④ 実験授業で目指す能力  
チームにより目指す能力の設定を一任するとしたが、基本的な能力は以下の点を踏まえるように努めることにした。
  - \* 情報の収集と選別、根拠となるデータや情報を用いて問題発見ができる。
  - \* 多分野の意見を組み合わせて課題を設定し、解決策を提案できる。  
(論理的思考力、批判的思考力、合理的判断力、発想力、創造力などの向上を目指す)
  - \* 議論・意見に筋道が通っており、分かりやすい表現ができる。
- ⑤ 実験授業の位置付け
  - \* 委員校の学生を対象にゼミナール活動の一環とする。
  - \* 学修成果の取扱いは、各参加ゼミナールによるものとする。
  - \* 授業の有効性を検証するため、チームに参加した学生一人ひとりから学修の成果について、ポートフォリオの作成を義務付ける。
- ⑥ 実験授業の実施時期
  - \* 中村チーム・・・10月26日～1月8日の8コマ
  - \* 井上チーム・・・10月26日～1月8日の8コマ
  - \* 高嶋チーム・・・10月26日から上記2チームの議論に参加
- ⑦ 実験授業の形態・方法
  - \* ネット上に電子掲示板を設けて、オンラインによる自己学修と対面を併用したチーム学修を行う。
  - \* チーム学修はネット上非同期で行う。各チームの成果を掲示板に掲載・共有することで、学修領域の拡大を図る。問題の整理、課題の洗い出し、解決案の意見交換、有識者・学生との意見交流、他チームによる意見交流の振り返りを行い、最終案をとりまとめる。
  - \* 自己学修では、問題の認識、課題の設定、課題の解決策の考察について予習・復習する。
- ⑧ 授業コマ数は、チームにより事前準備を含め8回程度とする。
  - ・1回 10月26日（オリエンテーション、フォーラム型授業の目的を説明）
  - ・2回 11月2日（SDGsの課題認識）
  - ・3回 11月9日（問題の発見・整理）、3チーム顔合わせ（昼休み30分）
  - ・4回 11月16日（課題の洗い出し）
  - ・5回 11月30日（課題の設定、有識者等との意見交流）
  - ・6回 12月7日（解決案の考察、有識者等との意見交流）
  - ・7回 12月14日（チーム間で解決案の中間発表・省察）
  - ・8回 1月8日（解決案の最終発表・評価：自己評価・有識者評価）令和4年1月8日合同発表会を13時から15時に実施する。また、チーム間で振り返りができ

るように12月14日掲示板で中間レビューを掲載する。

- ⑨ 有識者等の意見交流は、5回、6回に予定する。環境関係の鍛冶氏、福祉関係の平林氏は専門性を考慮して現段階では保留にしているが、メンタルケアの含め健康福祉関係に飯村氏、天羽氏にも打診することにした。全体でソーシャルワーカー含め5名程度予定することにした。また、委員校の学生で課題に興味・関心を抱く学生があれば、非同期で大学院生含めて意見・助言に参加できるようにする。
- ⑩ 授業の運営は、運営委員かコーディネータを務め、他の小委員会委員がファシリテータを行うことにした。
- ⑪ 学びのプラットフォームの設置場所は、3チームのコーディネータが設定する。
- ⑫ パソコン・ネット技術の訓練は、各参加大学で行う。
- ⑬ 授業の進め方
  - \* 授業担当教員から実験授業の趣旨、ICT活用した授業の進め方、掲示板等の学修プラットフォームの使用方法、教員のファシリテータ等について事前に理解を徹底する。また、参加学生一人ひとりに個人情報利用等の説明を行い、必要な許諾手続きを行っておく。
  - \* 掲示板を用いてチーム内で意見の共有、知識の関連付けを行う。
  - \* チーム内での議論が進んだ段階で、有識者、一般市民、学生との意見交流を行い、助言を受ける。
  - \* 有識者および他チームが提示した意見を参考に振り返りを行い、最適と考える解決案を作成する。
  - \* 最終的にとりまとめた解決案をもとにプレゼンテーションを行い、有識者の意見・感想を受ける。
  - \* 学生一人ひとりから獲得できた成果を報告させるとともに、実験授業のプログラムや運営方法、学修支援体制、ネット環境等について意見を求める。
- ⑭ 授業の評価
  - \* 学生個人の到達度評価は、本協会で作成したルーブリックを活用する。
  - \* チームの評価は、なぜ高い評価が得られたのか、又は得られなかったのか、学生個別にポートフォリオを提出させる。
- ⑮ 授業のプラットフォーム環境
  - \* 学修プラットフォーム設置場所（掲示板URL、ネットの管理責任者）
  - \* プラットフォームの名称・構成内容
    - ・名称：「2021年法政策等フォーラム型学修プラットフォーム」
    - ・構成：掲示板、KJ法などのアプリを貼り付ける
- ⑯ チームの紹介：参加学生のハンドル名を掲載

## 2. 事前オリエンテーションのビデオ教材について

資料①.1の「実験授業の趣旨と参加学生が獲得を目指す能力」のパーワポイントについて、中村主査から説明があり、決定した。

## 3. 著作権取り扱いの誓約書の雛型について

参加学生に対して、実験授業での個人情報の取り扱い方についての同意書を9月30日までに作成することを決定した。なお、著作権取り扱いの注意事項のマニュアルも中村主査が作成することにした。

## 4. ポートフォリオ様式の標準化

ポートフォリオのプラットフォームは、標準化しない。但し、レビューで掲示板に書き込むことができるように明示する。中村チームはcoggle、井上チームはWebClass、高嶋チームはTeamsとした。

## 5. 点検・評価・助言ルーブリックの調整

本協会が開発した学生個人向けの「思考力等の標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック参照例」の「点検・評価の基準」の「3」に掲げてある到達度の水準を参考にそれぞれのチームで能力要素を選定し、ルーブリックを作成することにした。なお、チームの評価は、本参照例で対象外にしているため、個別に設定することにした。

## 6. その他（次回開催日等）

今回は、1月8日以降、改めて日時を調整することとし、3月30日午後4時となった。